

空から見た あさひ・いのちの森

2017年6月23日撮影



真上からの全景



大きく育った森



湿地～下池の様子



全体を望む



水の流れは中池から田んぼへ、そして湿地へつながる



境界環境保全林（左端）、自然林（中央）と里山林(右)



田んぼと湿地を望む



メダカやフナの泳ぐ中池

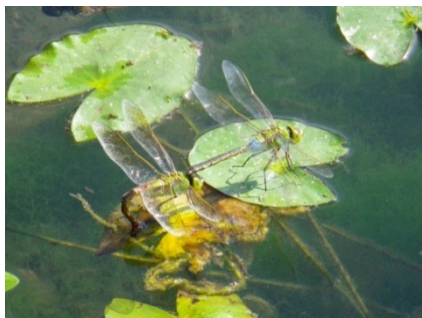
あさひ・いのち
の森の
いきものたち



クマゼミ



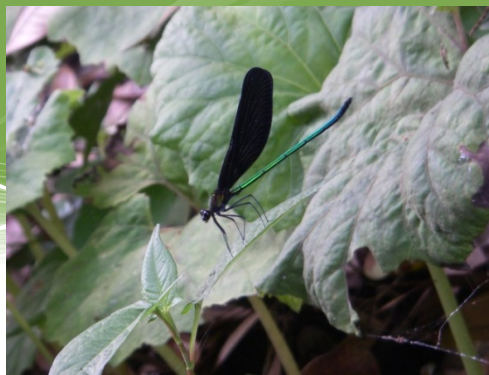
テナガエビ属の一種



ギンヤンマ



カルガモ



ハグロトンボ



ゲンジボタルの交尾



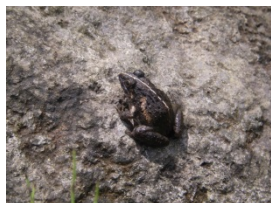
クビキリギス



コノシメトンボ



アオスジアゲハ



ヌマガエル



アマガエル



ミヤマアカネ



クサキリ

森の変化

富士ニュース

昭和21年11月15日
第3種郵便物認可

第18292号 (6)

あさひ・いのちの森へ

旭化成富士支社 千九百人が植樹



記念植樹する勝又支社長（左）ら

富士市校舎の旭化成ホームズ生息総合研究所建設と合わせて、同用地の約一万平方メートルに計画された環境活動ゾーン「あさひ・いのちの森」の創造に向けた植樹祭が十日、同所で開かれた。関係者、公募市民ら千九百人が参加。同地区湛海自然補生樹の苗木を一本一本丁寧に植える中、豊かな自然環境の創造を期して、作業の手を分け、地域との交流をこめ、いかにしたいと、森の成長に力をつけていくことへの理解を深め、植樹祭の意義を高く意識する。旭化成富士支社が、昭和三十四年に富士市、同所で創業。富士地域の発展に貢献したいと、同社の地産地消政策の一環として、地元産の苗木を積極的に活用し、環境創造への取り組みをすすめていく。また、地産地消政策の一環として、地元産の苗木を積極的に活用し、環境創造への取り組みをすすめていく。また、地産地消政策の一環として、地元産の苗木を積極的に活用し、環境創造への取り組みをすすめていく。

2008年1月



2008/01/07

2013年6月



2013/06/08

2008年9月



2008/09/04

2014年6月



2014/06/17

NPO 富士山自然の森づくり



2007

旭化成富士支社に「いのちの森」

旭化成富士支社の環境活動 10月開設の研究所



いのちの森完成予想図の一部。全体の雰囲気は、緑豊かな自然環境で、七味ぽどをかけるという

富士山
自然の森

2017年6月

